

## 浜の町病院 新築工事ニュース 第5号

浜の町病院の新築工事の概要と4月からの進捗状況についてお知らせ致します。新病院は地下1階、地上10階の免震構造になっています。病院用地は埋め立て地であり、地盤が軟弱で地下水位が高いなど病院を建設する上で多くの問題を抱えています。そのため、新病院の建設に当たっては工法に様々な工夫が施されています。

地下をつくるための掘削においては、掘った後に周囲の土砂が崩れてこないように山留を施す必要がありますが、水の存在や軟弱地盤であることから山留壁の選択が重要になります。今回の工事ではSMW工法が採用されています。これはドリルで土中を削孔しながら、先端部分からセメントミルクなどの混合液を吐出させ、土壌と混合してソイルセメントの壁をつくる工法です。止水性が高く、施工スピードも早く、振動・騒音も少ないというメリットがあります。6月21日には新病院本館建設現場周囲の地中にSMWによる連続した山留壁が完成しました。8月29日にはエネルギー棟の周囲にも山留壁の設置が完了しております。

また、軟弱な地盤であるため、地盤を改良する必要があります。これには多くの工法がありますが、今回は脱水工法が用いられています。脱水工法にもいくつかの方法がありますが、その中でスーパーウェルポイント工法が採用されています。これは先端に穴が空いた穴空き管(ウェルポイント)を多数地中に貫入し、真空ポンプで排水して地下水位を低下させて地盤を固め、掘削作業を容易にするという方法です。さらに、今回は汲み上げた地下水をすぐに周囲の地中に戻すリチャージウェルポイントも設置し、地下水位の低下によって周囲の土地が地盤沈下したりすることがないように配慮しました。6月30日から揚水を開始しており、地下の掘削作業が安全に行えるようにドライな環境を維持し、順調な工事の進行に貢献しています。

次いで100トン近い重機が乗って作業するための構台を支える長さ26mの支持杭の設置が7月2日には完了しました。

9月5日からは新病院の南側から掘削工事が開始されておりますし、9月12日からは重機を支える構台の設置作業が開始されました。

支持岩盤の深さまで長さ33mある病院本体を支える基礎杭ですが、エネルギー棟を含め、総数82本全て9月30日に設置が完了しました。以上のように建設工事は順調に進んでおります。

また、駐車場建設予定地には病室のモデルルームが完成し、9月7日から職員の見学が始まっています。病室の設備や備品について今後、職員の意見を反映させてより快適な療養環境をつくりあげる予定となっておりますのでどうぞご期待下さい。



製作日 H24.6.14  
浜の町病院新築工事  
広報係 堤